

2024年 3年社会科 年間指導計画案

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
1 学期 前期	4 月	1	授業開き(オリエンテーション)		・社会科授業について ・評価について											
		2	1 第一次世界大戦の始まりと総力戦 第一次世界大戦は、どのような特徴を持った戦争だったのだろうか。	第一次世界大戦は、どのようにして起こり、どのような特徴をもつ戦争だったのか、ヨーロッパの国際関係を図でまとめたり、写真資料などから読み取ったりする。	・風刺絵をもとにバルカン半島が「ヨーロッパの火薬庫」とよばれていたことに気づかせ、登場している国々を関係図などにまとめさせる。 ・第一次世界大戦がそれまでの戦争とは全く異なる戦争であったこと、大量殺戮兵器や化学兵器が登場したことに気づかせる。	(知)戦争に参加した国々が多く植民地をもっていたことをふまえて、第一次世界大戦が世界規模の総力戦となった理由について理解している。			○	ノート			○			
		3	2 第一次世界大戦の拡大と日本 日本は、第一次世界大戦やロシア革命にどのような関わったのだろうか。	日本は、第一次世界大戦やロシア革命にどのような関わったのか、資料などから読み取る。	・第一次世界大戦の勃発により、日本は日英同盟を利用してどのような行動がとれるのか、また、日英同盟を結んでいたイギリスが、日本のどのような行動を警戒していたのかを予想させる。	(知)第一次世界大戦中に日本が中国に示した二十一条の要求の中で、日本が実現させた要求の内容をふまえて、中国での反日運動が本格的に始まったり、欧米列強が日本への不信感を高めたりしたことを理解している。			○	ノート			○			
		4	3 第一次世界大戦後の欧米諸国 第一次世界大戦は、欧米諸国にどのような変化をもたらしたのだろうか。	第一次世界大戦を経て、国際関係はどのように変化したのか、欧米諸国で起こったことや民主主義の高まりなどに着目して、具体的な動きを読み取る。	・民族運動の高まりや国際平和への努力に気づかせるとともに、どのような限界があったかについても考えさせる。 ・資料をもとに、国際連盟の常任理事国になった日本が、国際的な場で初めて人種差別撤廃を提案したことに気づかせる。	(思)第一次世界大戦後、欧米諸国の政治にはどのような変化があったか、具体的な例をふまえて考察し、適切に表現している。		○	ノート			○				
		5	4 アジアの民族自決と国際協調 第一次世界大戦後、アジアではどのような運動が起こり、日本や欧米諸国はどのように対応したのか、朝鮮・中国・インドに着目して、具体的な動きを読み取る。	第一次世界大戦後、アジアではどのような運動が起こり、日本や欧米諸国はどのように対応したのか、朝鮮・中国・インドに着目して、具体的な動きを読み取る。	・年表中に示されているワシントン会議やロンドン海軍軍縮会議の結果を見て、国際協調が進められる一方で、海軍力においてイギリスやアメリカが優位な秩序が決められたことに気づかせる。	(知)朝鮮・中国・インドで起こった運動の内容を表に整理し、それぞれの要求などを適切にまとめ、理解している。			○	ノート			○			
		6	1 護憲運動と政党内閣の成立 第一次世界大戦の影響によって、日本の政治や経済はどのように変化したのだろうか。	第一次世界大戦によって、日本の政治や経済はどのように変化したのか、資料などから読み取ったり考えたりする。	・民主主義を広める動きが世界に拡大し、日本でも護憲運動によって初めて内閣が倒されたり、その後、初めての本格的な政党内閣が生まれられたことに気づかせる。	原内閣の成立にはどのような意味や意義があったのか、それまでの内閣との成立と異なる点に着目し、初めての本格的な政党内閣であったことなどを適切に読み取り、理解している。			○	ノート					○	
		7	2 社会運動の高まりと普通選挙の実現 大正時代に民主主義を求める社会運動はどのような形で展開したのだろうか。	大正時代に、デモクラシーはどのような形で展開したのか、選挙権の拡大やさまざまな社会運動に着目し、資料などをもとにまとめる。	・男子普通選挙が実現した意義について、有権者の増加を示す資料などをもとに考えさせる。	護憲運動、女性、労働者、差別された人々のそれぞれの立場から、大正デモクラシーの時期に展開された社会運動について考察し、どのようなことをなぜ求めていたのか、適切に表現している。		○	ノート					○		
		8	3 近代都市に現れた大衆文化 大正から昭和初期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのだろうか。	大正時代から昭和初期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのか、社会の変化や文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。	・現在の生活に通じる文化の事例に気づかせる。	大正から昭和初期の時期に広まり、現代につながる欧米の文化や習慣について、「衣・食・住・子ども・その他」に分けて、表を用いて適切にまとめ、理解している。			○	ノート			○			

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育				
							主	思	知		人間	情報	将来	意思	
		9	第3章 軍国主義と日本の行方 1 世界恐慌と行きづまる日本 ○世界恐慌の始まり ○日本の不景気 ○農村に広がる不景気	アメリカから始まった世界恐慌は日本にどのような影響を与えたのか、資料などから読み取ったり、考えたりする。	・景気がよいと悪いときではどのような違いがあるか、予想を立てさせ、教科書の本文から実際にあったできごとを発表させる。	(思)アメリカの不景気が世界に広まった理由と、日本ではとくに農村で不景気が深刻になった理由を考え、それぞれ適切な根拠をもって説明している。		○		ノート ワークシート	○	○			
		10	2 欧米諸国が選択した道 ○ブロック経済 ○ニューディール政策 ○五か年計画 ○ファシズムの台頭	世界恐慌に対して、欧米諸国はどのような政策を行ったのかを資料などから読み取り、その違いをまとめる。	・次時への動機づけとして、本時の学習をふまえて、日本経済の立て直しにはどのような方法があるか、当時の総理大臣に助言するつもりで自分の考えを発表させる。	(知)世界恐慌への対策として、イギリスやフランスとアメリカ、ドイツでは、どのような点が違っていたのか、表に適切にまとめている。			○	ノート ワークシート		○	○		
		11	3 強まる軍部とおとろえる政党 ○満州事変と「満州国」の建国 ○政党政治のどたえ ○国際連盟脱退と強まる軍部の力 ○日本経済の回復	日本の軍部はどのような方法で不景気をのりこえようとしたのか、また政党はどのようにしておとろえたのか、具体的な動きに沿いながら考える。	・『五・一五事件を報じる新聞』を読ませて、内閣総理大臣が殺害された事件が「不穏事件」と表現されていることについて、生徒の印象を述べさせる。	(思)日本の民衆が満州事変を起こした軍部を支持した理由を考え、根拠も含めて自分の言葉で適切に表現している。		○		ノート ワークシート		○			
		12	4 戦争につき進む日本 ○日中戦争 ○抗日民族統一戦線 ○戦争優先の体制 ○戦争による国民生活の変化	日本の政府は戦争を進めるためにどのような政策を行ったのか、資料などから読み取ってまとめる。	・奉天尋常小学校五年生の作文から、子どもたちはどのような理由で日本が中国と戦っていると認識していたのか読み取らせ、中国側ならどのような反対意見が出せそうか、考えさせる。	(思)当時の政府にとって、国民に正確な情報が知られてしまうと何が問題なのか、具体的な事例を紹介しながら自分の意見を適切に述べている。 (知)日本政府が戦争を進めるために行った政策を三つ以上挙げ、それぞれのねらいを適切に説明している。		○	○	ノート ワークシート		○			
		13	○歴史を探ろう!	長野県からみる満州移民											○
		14	単元のまとめ	これまでの学習の振り返り	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、時代的特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思)時代的内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知)基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト					
		15	1 第二次世界大戦への道 ○第二次世界大戦の始まり ○アジアと太平洋における対立の激化 ○太平洋戦争	日本が戦線を拡大し、アメリカとの戦いにふみこんだのはどのような理由からか、資料などから読み取って自分の言葉で表現する。	・同盟関係にあるドイツのナチ党による迫害からのがれようとするユダヤ人を、日本政府の意向に反し、ビザを発給して出国できるようにした日本人(杉原千畝)がいたことに気づかせる。	(思)日本が東南アジアまで戦線を拡大した理由、アメリカとの戦いにふみこんだ理由を理解し、自分の言葉で適切に表現している。 (知)第二次世界大戦が始まったころの国際関係を図で適切に示している。		○	○	ノート ワークシート		○			
		16	2 太平洋戦争と植民地支配の変化 ○「満州」での日本人のくらしと中国人の抵抗 ○植民地・占領下のようす ○皇民化政策	日本は植民地や占領下でどのような支配を行い、またそれに対するどのような動きがあったのか、資料などから読み取ったり自分の考えを発表したりする。	・日本の植民地政策を、支配される側である外国人の立場から考えさせる。	(知)日本が植民地・占領下で行った政策の内容やねらいを理解し、その知識を身につけている。			○	ノート ワークシート		○			

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育			
							主	思	知		人間	情報	将来	意思
1 学期 前期	5 月	17	3 戦局の悪化と戦時下の暮らし ○戦局の悪化 ○戦時下の暮らし	戦局が悪化するなかで、人々はどうのような生活をしてきたのか、写真や資料などから読み取る。	・当時の中学生がどのような生活をしてきたか、予想を立てさせたり、小説などで読んで知っていることを発表させたりする。	(知)①戦場となった沖縄で、多くの住民が犠牲になったさまざまな理由について理解し、その知識を身につけている。 ②戦時下の若者や子どもたちの生活が描かれている小説などを図書室で探し、具体的な場面を適切に紹介している。			○	ノート ワークシート	○	○		
		18	○歴史を探ろう！ 戦場となった沖縄	沖縄戦について、戦前と戦後の人々の生活の変化を読み取る。	沖縄戦について深く理解する	(知) 沖縄戦について理解する。			○	ノート ワークシート		○		○
		19	4 ポツダム宣言と日本の敗戦 ○イタリア・ドイツの降伏 ○原子爆弾の投下 ○戦争の終結	ポツダム宣言を受け入れるまでに、どのような犠牲があったのか、具体的な事実を整理してまとめる。	・原爆を投下された広島や長崎の惨状を資料などから読み取らせ、私たちが国際協調と国際平和の実現に努めることの意義に気づかせる。	(知)ヤルタ会談、東京大空襲、沖縄戦、ドイツの降伏、広島・長崎への原爆投下、ソ連参戦、ポツダム宣言受諾など、1945年の世界と日本の動きについて、多くの犠牲者を生んだできごとを中心に、8月は日付も含めて表などに整理して適切にまとめている。			○	ノート ワークシート				○
		20	学習を振り返ろう 近代(後半)の特色を説明しよう。	第二次世界大戦により、どのような傷あとが残ったのか、さまざまな面から考え、自分の言葉で表現する。	・戦争が終結しても、多くの傷跡や深刻な問題が残ったことに気づかせる。	(思)さまざまな敗戦の受け止め方に対して、それぞれの理由を予想して適切に説明している。 (知)海外の軍人や民間人の中には、戦争が終わった直後に日本に帰ることができなかった人々がいたことを理解し、その経緯などの知識を身につけている。		○	○	ノート ワークシート			○	
		21	○タイムトラベル 高度経済背長期をながめてみよう	資料から政治や社会の変化を考える。 近代後半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	・軍事費の移り変わりを表したグラフから政治の変化を読み取ることができることに気づかせる。	(思)明治後半から昭和初めまでの軍事費の変化をグラフから読み取り、政党政治の意義を考え、近代後半の時代を大観して適切に表現している。また、明治、大正、昭和初期の3枚の写真から、この間に社会はどのように変化したのか、またそれぞれの時代の生徒はどのような生徒になることが求められたのか考え、近代という時代を大観して適切に表現している。		○	○	ノート ワークシート			○	

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育			
							主	思	知		人間	情報	将来	意思
		22	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、時代的特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 時代的内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト				
		23	第7部 現在に続く日本と世界 第1章 敗戦から立ち直る日本 1 敗戦からの出発	敗戦後、どのような改革が行われ、またどのような影響が残ったのか理解する。	・終戦後、日本の統治はアメリカ軍を中心としたGHQ主導であったことを理解させる。	(知) GHQが日本政府に指示した内容を読み取り、適切にまとめている。			○	ノート ワークシート	○	○		
		24	2 新時代に求められた憲法 ○連合国軍の占領と諸改革 ○新憲法の制定	戦後の日本ではどのような方針のもとで改革が行われたのか、資料などから読み取ったり、それらの意義を考えたりする。	・諸改革を日本だけでなく中国やアメリカの新聞記者の立場で紹介する記事の見出し文を考えさせたり、自分が最も大切だったと考える改革を紹介し合ったりする場面を設ける。	(思) 戦後の改革の一つを選び、その改革によってどのように社会が変化したか、具体的な成果がわかるように適切に説明している。 (知) 日本国憲法における三つの大原則の内容を理解し、大日本帝国憲法との違いを適切に説明している。		○	○	ノート ワークシート				○
		25	3 冷たい戦争とその影響 ○新たな対立の始まり ○アジアの動向 ○朝鮮戦争	第二次世界大戦後の冷戦は世界各地にどのような対立を生んだのか、朝鮮戦争を主に取り上げて考えさせる。	・第二次世界大戦の終結からわずか5年後、朝鮮半島が再び戦場となったことが、戦後の日本の改革にも路線変更という意味で大きな影響を与えたことに気づかせる。	(主) 現在の核保有国にはどのような国があるのかを調べ、日本が果たせる役割について進んで考えたり自分の意見を発表したりしている。 (思) 平和主義の原則のもと、非軍事化が進められていた日本で、自衛隊がつくられた理由を、「冷戦体制」という言葉を用いて適切に説明している。	○	○	ノート ワークシート			○		
		26	第2章 世界の多極化と日本の成長 1 日本の独立と世界の動き ○平和条約の調印と国際連合への加盟 ○55年体制と安保闘争 ○新しい勢力の形成	日本はどのようにして独立を回復し、また同時にどのような課題をかかえるようになったのか、資料などから読み取ったり考えたりする。	・『平和条約をめぐる対立』を見せて、講和の方法として、ソ連などを含むすべての交戦国と全面講和する道と、講和が可能な西側の国々と単独で講和する道の二つがあったことに気づかせる。	(思) 日米安全保障条約に賛成する立場、反対する立場の主張とその根拠を両方とも適切に述べている。 (知) サンフランシスコ平和条約で決まった内容を資料から適切に読み取って説明している。		○	○	ノート ワークシート				○
27	2 冷戦下での日本とアジア ○ベトナム戦争 ○沖縄の復帰と基地問題 ○国交正常化と戦後補償	ベトナム戦争により、日本を含めた東アジアの関係はどのように変化したのか理解する。	・ベトナム戦争が起こったわけを理解させ、沖縄が日本へ変換された背景をベトナム戦争とのかかわりから考えさせる。	(思) 日本と韓国・中国との国交正常化に対して、ベトナム戦争が与えた影響を考察し、適切に表現している。		○		ノート ワークシート			○			
28	3 経済成長による日本の変化 ○高度経済成長 ○深刻な公害問題 ○石油危機と日本経済	高度経済成長により、社会や生活にはどのような変化があったのか、写真やグラフなどの資料などから具体的に読み取る。	・高度経済成長によって国民生活が向上する一方で、公害による深刻な被害や環境破壊、過疎過密の問題が起きたことにも気づかせる。	(知) ①「四大公害」とよばれる公害病の病名と発生地などに関する知識を身につけている。 ②高度経済成長のときから使われるようになった家庭電化製品にはどのようなものがあるか、また、それらによって生活がどのように変化したか、表に適切にまとめている。			○	ノート ワークシート			○	○		
29	○メディアを通して形作られていく文化	戦後復興期と高度経済成長期では、それぞれどのような文化が生まれたのか、具体的な資料をもとに調べる。	・年齢を考慮しながら身近にいる人々にどのような変化が印象的だったかを聞き取り調査させて、当時の時代背景との結びつきを考えさせる。	(主) 戦後復興期や高度経済成長期を代表する文化人のうち、教科書で紹介されていない人物を意欲的に調べ、レポートにまとめている。 (知) 戦後復興期と高度経済成長期を代表するような文化の特徴や代表的な文化人を、適切に表にまとめている。			○	ノート ワークシート			○			

1 学期前期
5 月

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
6月		30	4 大衆化・多様化する戦後の文化 ○戦後復興期の文化 ○高度経済成長による変化 ○メディアから広がる文化 ○まとめ	戦後復興期と高度経済成長期では、それぞれどのような文化が生まれたのか、具体的な資料をもとに調べる。	・年齢を考慮しながら身近にいる人々にどのような変化が印象的だったかを聞き取り調査させて、当時の時代背景との結びつきを考えさせる。	(主)戦後復興期や高度経済成長期を代表する文化人のうち、教科書で紹介されていない人物を意欲的に調べ、レポートにまとめている。 (知)戦後復興期と高度経済成長期を代表するような文化の特徴や代表的な文化人を、適切に表にまとめている。	○		○	ノート・ワークシート			○		○	
		31	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、時代的特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思)時代的内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知)基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト						
		32	第3章 これからの日本と世界 1 グローバル化が進む社会 ○冷戦の終結 ○グローバル化の進展 ○地域紛争の激化 ○冷戦後の世界秩序	冷戦が終結しグローバル化が進むなか、世界はどのように変化しているか、写真資料などから読み取る。	・「第二の開国」をキーワードに、グローバル化によってもらえる良い影響だけでなく、悪い影響についても考えさせる。 ・公民的分野の学習の動機づけになるよう配慮する。	(知)①グローバル化を進展させているもの、グローバル化によって実現している具体的なことがらを理解し、その知識を身につけている。 ②冷戦終結後に起こったできごとのうち、冷戦中には実現できなかったであろう具体的なことがらを指摘している。			○	ノート ワークシート					○	
		33	2 激変する日本とアジア ○55年体制の崩壊 ○バブル経済の崩壊 ○激変する東アジア	昭和から平成にかけて、日本国内およびアジアとの関係はどのように変化したのか理解する。	・日本における55年体制の崩壊・バブル経済の崩壊を理解させる。 東アジアにおける経済面での急成長について理解し、今後の日本とのつながりについて考えさせる。	(知)冷戦後に起こった日本での二つの崩壊を本文から読み取り、それぞれの経緯を適切にまとめている。			○	ノート ワークシート				○		
		34	3 国際社会におけるこれからの日本 ○東日本大震災 ○環境と資源エネルギー ○世界との結びつき ○未来のために歴史から学ぶ	東日本大震災から私たちはどのようなことが起こったか考える。	・東日本大震災の被害を認識すると同時に震災が日本のエネルギー政策の転換点ともなっていることを理解させる。	(知)全世界に共通している課題と、特定の国や地域がかかっている課題に分けて、今まで日本が国際社会のなかで取り組んできたことを適切に表でまとめている。			○	ノート ワークシート		○			○	
		35	学習のまとめ ○現代とはどのような時代か	資料から政治や経済の変化を考える。 現代とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	・新旧の憲法の違いに着目して、現代の特色を表現することができるように助言する。 ・現代とはどのような時代か、まずは短い言葉で表現させ、そのように表現できる理由を説明させる。	(思)大日本帝国憲法と日本国憲法を比較して、どのような点に変更され、時代がどのように変わったか、現代を大観して適切に表現している。また、1940～2005年にかけての大陸別貿易先の変化をグラフから読み取り、日本と諸外国の関係がどのように変化したかを考え、現代を大観して適切に表現している。		○		ノート ワークシート						
		36	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、時代的特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思)時代的内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知)基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト						

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
公民的分野																
1 学期 前半	6 月	37	*学習の前に ○30年前と今の社会を比較してみよう 1 私たちの現代社会をみてみよう ○人々の努力と日本の成長 ○私たちが「持続可能な社会」	20世紀から21世紀にかけて、私たちの社会はどのように変化したのかを考える。	歴史的分野での学習成果を生かして、現代社会の特色の背景にある高度経済成長についてとらえさせる。また、現代社会がかかえる課題を解決するうえで、「持続可能な社会」という視点に気づかせる。	(主) 「持続可能な社会」とはどのような社会であるかを具体的な事例をもとにとらえようとしている。 (知) 高度経済成長によって人々の生活はどのように変化したかを写真や統計資料から読み取り、分類・整理している。	○	○		ノート ワークシート			○			
			2 少子高齢化が進む現代 ○少子高齢社会とは ○活力ある社会を維持するために	少子高齢化が進むと、私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考える。	近年の少子化の進行と平均寿命の伸長によって、日本の人口構造が変化していることを理解させる。	(思) 少子高齢化が将来のわが国の社会にどのような影響をもたらすかを予測し、持続可能な社会という観点から、その対策を考えて、かつ提案することができている。 (知) 現代日本の特色として少子高齢化がみられることを理解し、その知識を身につけている。	○	○		ノート ワークシート			○			
			3 情報化が進む現代 ○情報化とは ○情報社会で生きるために	情報化のさらなる進展は、私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考える。	高度情報通信ネットワーク社会の到来により、世界中の人々と瞬時にコミュニケーションをとることが可能になったことや、さまざまな情報が公開、発信、伝達されている状況であることを理解させる。	(思) 大量の情報の活用によって社会にどのような変化をもたらしたかを考え、自分の言葉で説明している。 (知) 情報化によるさまざまな変化を表す資料を収集し、適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	○	○		ノート ワークシート			○			
			4 グローバル化が進む現代 ○グローバル化とは ○結びつきが強まる世界	グローバル化は私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考える。	現代社会では大量の資本や人、商品などが国境をこえて容易に移動できるようになっていることを理解させる。	(思) グローバル化が将来の日本の社会にどのような影響をもたらすかを考え、持続可能な社会をつくるという観点から提案することができている。 (知) 現代日本の特色としてグローバル化がみられることを理解し、その知識を身につけている。	○	○		ノート ワークシート			○			
			1 生活に息づく文化 ○生活に息づく文化 ○文化の多様性と異文化理解	文化は私たちの生活とどのように結びついているかを考える。	科学では、技術革新によって豊かな生活が享受できるようになったこと、芸術では、感性豊かな人間性をはぐくみ文化的な生活を生み出す役割を担っていること、宗教では、その考え方が人々の生活に影響を与えていることを理解させる。	(知) 世界には多様で豊かな文化が存在することに気づき、他国の文化を認め、その知識を身につけている。		○		ノート ワークシート			○		○	
			2 日本の伝統・文化 ○外来文化を受け入れてきた日本の文化 ○自然と一体化した日本の文化	日本の文化がどのように形づくられ、どのような特色があるのかを考える。	歴史的分野での学習成果を生かして、わが国の伝統や文化が自然とのかかわりが深いことを理解させる。	(知) ①日本人の心情やものの考え方の背景に外来文化や自然とのかかわりがあることを理解し、その知識を身につけている。 ②歴史的分野での学習成果を生かして、わが国の伝統や文化と外来文化、自然とのかかわりについての情報を収集し、分類・整理している。		○		ノート ワークシート			○			
			3 文化の継承と創造 ○伝統文化を受け継ぐ ○新たな文化を生み出す	私たちは文化に、どのような形でかかわっているのかを考える。	より豊かな生活を実現していくためには新しい文化の創造に努める必要があること、文化の創造には伝統の継承がふくまれており、そのことによって初めて普遍的で個性豊かな文化が育ちうること気づかせる。	(主) 身近な地域社会の中から、伝統文化を受け継いでいる事例を取りあげ、これからも継承することに意義を見出しまとめている。 (思) 新しい文化を生み出すことが大切な理由を考え、自分の言葉で説明している。	○	○		ノート ワークシート			○			

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育			
							主	思	知		人間	情報	将来	意思
7月	44	1 家族のなかで生きる私たち ○私たちと家族 ○家族形態の変化 ○法にみる家族 ○これからの家族と私たち	家族はどのような役割を果たしているのかを考える。	人間は一人で生きているのではなく、さまざまな社会集団を形成し、その一員として生活していることを、最も基礎的な社会集団である家族を例にとらえさせる。	(主) 家族はそれぞれが役割を分担していることを認識し、自分が分担された役割を果たそうとしている。	○			ノート ワークシート		○	○		
		2 地域のなかで生きる私たち ○地域社会とは ○地域社会の役割と課題 ○地域社会のこれから ○私たちと社会のつながり	地域社会がどのような役割をはたしているのかを考える。	人間は、本来「社会的存在」であることに着目させ、地域社会と積極的にかかわりをもととする意欲をもたせる。	(主) 自分が住んでいる地域社会について関心を高め、地域の活動に主体的に参加しようとしている。 (思) 地域社会を活性化させるためにどのようにすればよいかを考え、自分の言葉で表現している。	○	○		ノート ワークシート		○			
		3 対立から合意へ ○対立から合意へ ○合意するためには トライアル公民 「マンションの騒音問題を解決しよう」	私たちが生きていくうえで、意見が対立した場合、どのように解決すればよいのかを考える。	p.26～27トライアル公民「マンションの騒音問題を解決しよう」の事例を通して、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての「対立と合意」「効率と公正」に気づかせる。	(思) 「マンションの騒音問題を解決しよう」について、みんなが納得できる合意をつくるための方法を考え、自分の言葉で説明している。 (知) 対立を解消するためにはみんなが納得できる合意をつくる必要があることを理解し、その知識を身につけている。		○	○	ノート ワークシート		○			
		4 きまりの意義 ○効率と公正とは ○きまりを守るとのこと	意見が対立したとき、より良い合意をつくるための考え方である「効率」「公正」とは、どのような考え方なのかを理解する。	クローズアップの二つの具体的な事例を通して、「効率」と「公正」の意味を考えさせる。	(思) 問題の解決について合意したことを「きまり」として守ることの意味を考え、自分の言葉で説明している。 (知) 合意の妥当性を判断するさいに、無駄を省く「効率」と、決定の手続きや内容についての「公正」が必要であることを理解し、その知識を身につけている。		○		ノート ワークシート		○			
	48	夏休みの宿題について	夏休みの宿題の確認 社会科新聞・人権作文・税の作文・税の標語の説明	長期休業中の課題について計画的に取組めるように計画を立てさせる										
8月	49	* 学習をふりかえろう 第1部1, 2, 3章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。			○	○						
	50	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、時代的特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 時代的内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト					
	51	* 学習の前に ○暮らしを良くする政治を考えてみよう 1 私たちの選択で決まる民主主義 ○民主主義にもとづく私たちの社会 ○民主主義を実現するためには ○民主主義と私たちの権利	民主主義とはどのようなしくみで、それを実現するためにどのような取り組みが必要なのかを考える。	クローズアップを活用して、民主主義のしくみについてとらえさせ、多数決の原理と少数意見の尊重という考え方を理解させる。	(思) 「中学生が地域社会を動かした!」の事例から、民主主義とはどのようなしくみかを考え、自分の言葉で説明している。		○		ノート ワークシート		○			
	52	2 民主主義と人権の歩み ○民主主義の歩み ○人権の歩み ○法の支配	民主主義と人権の保障は、どのような歴史的過程をたどって実現してきたのかを理解する。	歴史的分野の学習成果を生かして、基本的人権の理念が人類の多年にわたる努力の結果であること、法の支配により人権が守られることを理解させる。	(主) 身近な生活の中にある民主主義への関心を高め、主体的に意見を述べている。 (知) 基本的人権の理念や、法にもとづく政治が民主政治の原理となっていることを理解し、その知識を身につけている。	○		○	ノート ワークシート			○		
	53	期末テスト		診断評価				○	○	期末テスト				
	54	テスト解答	学習の振り返り 誤答レポートの作成	定着の不十分の課題を補足する。	(主) 誤答レポート等にまとめることができる。	○								

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育				
							主	思	知		人間	情報	将来	意思	
1 学期 後半	9 月	55	1 日本国憲法とは ○国の基本法である憲法 ○大日本帝国憲法 ○日本国憲法の成立	憲法と私たちの生活にはどのようなかかわりがあるのかを理解する。	日常の具体的な事例から、日本国憲法にもとづく政治によって国民の自由と権利が守られていることに気づかせる。	(思) 最高法規である日本国憲法が国家や国民それぞれに果たしている役割を考え、自分の言葉で説明している。 (知) 日本国憲法と大日本帝国憲法を比較した資料などから、日本国憲法の特徴を読み取りまとめている。		○	○	ノート ワークシート		○			
		56	2 国民主権と私たち ○日本国憲法の三大原則 ○国民主権 ○憲法の改正と国民主権 ○象徴天皇制	国民が主権をもつとはどのようなことなのかを理解する。	国の政治を最終的に決定する権限が国民にあり、代表民主制においては、その権力が国民の代表者によって行使されることを理解させる。	(知) 国民主権の原則の下での国民としての政治参加のあり方や象徴としての天皇の地位について理解し、その知識を身につけている。			○	ノート ワークシート			○		
		57	3 日本の平和主義 ○平和主義にこめられた願い ○日本国憲法と自衛隊	日本国憲法では、平和主義をどのように定めているかを理解する。	平和主義について理解させるとともに、自衛隊や国際貢献のあり方についての議論があることにもふれる。	②日本の平和主義や自衛隊のあり方について考え、自分の言葉で説明している。 ③日本国憲法の前文から、平和主義をどのように定めているかを読み取りまとめている。		○	○	ノート ワークシート				○	
		58	4 基本的人権の尊重と平等権 ○個人の尊重 ○平等権とは ○平等のあり方 ○男女平等はいま	日本国憲法では、平等権をどのように保障しているかを理解する。	クローズアップをもとに日常の具体的な事例から、平等のあり方について理解させる。	(思) 男女の違いで、「あって良い違い」と「あってはならない違い」をあげ、その理由を説明している。 (技) 日本国憲法から平等権について定めている条文を見つけ出しまとめている。		○	○	ノート ワークシート			○		
		59	5 現代社会に残る差別(1) ○部落差別 ○アイヌの人々への差別	部落差別、アイヌの人々への差別はどのようなものなのかを考える。	現代社会にも同和問題やアイヌの人々への差別など、さまざまな差別が残されていることに気づかせる。	(知) 部落差別やアイヌの人々に対する差別についての歴史的分野の学習をふりかえり、写真や資料から現在でも差別が残されていることを読み取り自分の課題として考えをまとめている。			○	ノート ワークシート			○		
		60	6 現代社会に残る差別(2) ○在日外国人への差別 ○さまざまな偏見・差別	現代社会に残る偏見や差別をなくすために、どのような取り組みが求められているかを考える。	日常生活のなかから、在日外国人差別、障がいがある人への差別、病気への偏見の具体的な事例を見つけさせ、現代社会には	(思) 現代社会に残るさまざまな差別をなくすためにはどうすればよいかについて考え、自分の意見を表現している。		○					○		
		61	7 自由権 ○自由権とは ○精神の自由 ○生命・身体の自由 ○経済活動の自由	日本国憲法では、自由権をどのように保障しているかを理解する。	歴史的分野の学習を生かして、日本国憲法制定の前と後では、自由権はどのように変化してきたかを理解させる。	(知) 精神の自由、生命・身体の自由、経済活動の自由について理解し、その知識を身につけている。				誤答レポート				○	

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育						
							主	思	知		人間	情報	将来	意思			
1 学期 後半	9 月	62	8 社会権 ○社会権とは ○生活のなかの社会権	日本国憲法では、社会権をどのように保障しているかを理解する。	基本的人権として社会権が認められてきた歴史的背景を理解させる。	(技) 日常生活のなかから、社会権の保障に関する事例を見つけ出しまとめている。 (知) 日本国憲法で保障されている社会権の内容について理解し、その知識を身につけている。			○	ノート ワークシート				○			
		63	9 広がる人権の考え方 ○社会とともに変化する人権 ○環境権 ○プライバシーを守る権利 ○知る権利 ○自己決定権	社会の変化にともなって、どのような人権が新たに求められているのかを理解する。	社会の変化にともなって人権の考え方が広がり、憲法に規定されないことがらについても権利が保障されてきていることに気づかせる。	(知) 日本国憲法第13条の幸福追求権をもとに、法律で新たに認められるようになった人権について内容を理解し、その知識を身につけている。				ノート ワークシート				○			
		64	10 人権を守るためには ○人権を守るための権利 ○国民の義務 ○社会の一員としてのあり方と公共の福祉	人権を守るために、日本国憲法ではどのような権利が保障されているのかを理解する。	国民として果たすべき三大義務と公共の福祉による基本的人権の制限についても理解させる。	(思) 大切な人権を守るために、社会の一員としてのみずからのあり方を考え、自分の意見を表現している。 (知) 人権を守るために保障されている権利と、国民の三大義務および公共の福祉による制限について理解し、その知識を身につけている。		○		ノート ワークシート					○		
		65	* 学習をふりかえろう 第2部1, 2章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。	(主) 国民主権の原則をふまえ、国民としての政治参加することへ主体性をもってまとめている。	○			ノート ワークシート レポート							
		66	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。			○	○	単元テスト						
		67	1 国民の願いを実現するために ○政治とは ○国民の願いを実現する国会 ○国会議員の役割	国民の願いを実現するために、国会はどのような役割を果たしているのかを理解する。	「国会議員が語る政治の現場①」を活用して、A議員の具体的な人物像をイメージさせながら、国会議員の役割を理解させる。	(主) 主権者である国民によって選ばれる国会議員の活動に。。。 (知) 国民の願いに沿った政治を実現するために、国会が果たす役割を考え、自分の言葉で説明している。		○		○	ノート ワークシート				○		
		68	2 世論とマスメディア ○世論と政治 ○マスメディアと政治 ○インターネットと政治	マスメディアは政治とどのように関わっているのかを考える。	「国会議員が語る政治の現場②」を活用して、世論と政治の関係に関心をもたせる。	(主) 国政に関するマスメディアの報道に対して、主体的な意見をもちまとめている。 (知) p.64～65トリアル公民「新聞について知ろう」を活用して、複数の新聞の同じできごとの記事を比較し、新聞社による見出しや書き方の違いを読み取りまとめている。		○		○	ノート ワークシート レポート				○		
		69	3 政党の役割 ○政党とは何か ○政党の役割 ○日本の政治の今	政党は政治においてどのような役割を果たしているのかを考える。	「国会議員が語る政治の現場③」を活用して、政治と政党のかかわりについて関心をもたせる。	(知) 無党派層が拡大してきている理由を考え、自分の言葉で説明し、政党の活動について報じた新聞記事を収集し、与党の記事と野党の記事を選択して分類している。				○	ノート ワークシート				○		
70	4 選挙制度とその課題 ○政治参加の手段としての選挙 ○選挙制度とその特色 ○日本の選挙制度の課題	日本の政治において、選挙はどのように行われているかを理解する。	「国会議員が語る政治の現場④」を活用して、選挙についての関心を高め、現行の選挙制度のしくみや課題について理解させる。	(知) ①現行の選挙制度のしくみと課題について理解し、その知識を身につけている。 ②写真や資料から衆議院と参議院の選挙制度の違いを読み取りまとめている。				○	ノート ワークシート				○				

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育			
							主	思	知		人間	情報	将来	意思
1 学期 後半	71	5 国会の役割としくみ ○国会のおもな仕事 ○国会のしくみ ○国会議員の身分保障	国会はどのような仕事を、どのようなしくみで行っているのかを理解する。	歴史的分野の学習を生かして、クローズアップで取りあげている人物の活躍をふりかえらせ、国会について関心をもたせる。	(思) 二院制や衆議院の優越が取り入れられている理由や国会の主な仕事としくみについて、自分の言葉で説明している。	○			ノート ワークシート		○			
		72	6 国会の現状と課題 ○国会の種類と会議のルール ○法律はどのようにつくられるか ○少ない議員立法 ○これからの国会のあり	国会は、法律の制定においてどのような課題をかかえているかを考える。	クローズアップを活用して、法律の成立までの流れを時系列で確認させ、法律制定のしくみを臨場感をもって理解させる。	(知) 法律の制定のしくみや国会がかかえる課題について理解し、その知識を身につけている。			○	ノート ワークシート		○		
		73	7 内閣の役割としくみ ○内閣の役割 ○内閣の組織 ○議院内閣制	国民の要望を実現するために、内閣はどのような役割を果たしているのかを理解する。	クローズアップを活用して、内閣総理大臣の1日の動きを確認させ、内閣総理大臣の責任の重さに気づかせる。	(知) ①内閣の役割について理解し、その知識を身につけている。 ②議院内閣制のしくみや特色を読み取りまとめている。			○	ノート ワークシート		○		
	74	8 行政の役割と課題 ○行政の役割 ○行政権の拡大 ○これからの行政のあり方	現在の行政はどのような課題をかかえているのかを理解する。	「国会議員が語る政治の現場⑤」を活用して、国会議員がどのように行政にかかわっているのかについて関心をもたせる。	(思) 行政改革や規制緩和が進められている背景を考え、自分の意見を表現している。		○		ノート ワークシート		○	○		
		75	9 私たちの生活と裁判 ○法にもとづいて行われる裁判 ○民事裁判と刑事裁判 ○三審制 ○司法権の独立	裁判は私たちの生活のなかでどのような役割を果たしているのかを理解する。	クローズアップを活用して、裁判官、検察官、弁護士の具体的なはたらきに目させ、民事裁判と刑事裁判の違いを理解させる。	(主) 裁判について関心を高め、裁判を身近なものとしてとらえている。 (知) 民事裁判と刑事裁判のしくみやその違いについて理解し、その知識を身につけている。	○		○	ノート ワークシート		○		
	10 月	76	10 人権を守る裁判とその改革 ○裁判での人権保障 ○司法制度の課題とこれから ○裁判員制度	裁判ではどのように人権が守られているのかを理解する。	p. 81「裁判員になったら」を活用して、裁判員裁判の流れを読み取らせ、国民の政治参加の意義について考えさせる。	(思) 裁判員裁判の事例をもとに、国民の政治参加の意義や裁判員制度の課題について考え、自分の意見を表現している。 (知) 司法制度改革が進められている背景を調べ、日本の司法制度の課題を整理している。		○	○	ノート ワークシート		○		
77			11 三権の分立 ○権力の分立 ○日本での三権の関係 ○三権と私たちの関係	日本の三権はどのように分立しているのかを理解する。	p. 85図④を活用して、主権者として三権が国民のために機能しているかどうかを監視することの大切さを認識させる。	(思) 三権の抑制と均衡を機能させるために国民がなすべきことを考え、自分の意見を表現している。		○		ノート ワークシート			○	
78		* 学習をふりかえろう 第2部3章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。			○	○	ノート ワークシート					
79		単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト					
80		1 地方自治と地方公共団体 ○地方公共団体の仕事 ○民主政治を支える地方政治 ○地方分権の動き	自分の住んでいる地域の政治は、どのような考えにもとづいて行われているのかを理解する。	「まちづくりを考える①」を活用して、地方公共団体の仕事に関心をもたせ、これらが私たちの生活と密接に結びついていることを理解させる。	(知) 地方分権の動きに向けての具体的な取り組みの事例を収集し、地方分権のメリットとデメリットを分類・整理している。			○	ノート ワークシート		○			
		81	2 地方公共団体のしくみと政治参加 ○地方公共団体のしくみ ○地方議会・首長と私たち	地方公共団体は、どのようなしくみで仕事を行っているのかを理解する。	「まちづくりを考える②」を活用して、住民が地方の政治にどのように参加しているのかを理解させる。	(思) 地方の政治で住民に直接請求権が認められている理由を考え、自分の言葉で説明している。 (知) 地方の政治と住民との関係を理解し、地方公共団体のしくみについての知識を身につけている。	○	○	ノート ワークシート		○			

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
2 学期 前半	11 月	92	1 家計の収入と支出 ○家計の収入 ○家計の支出と貯蓄 ○いろいろな支払い方法	経済のなかで、家計はどのような役割を果たしているかを考える。	クローズアップを活用して、自分の家の消費支出や貯蓄と比較することを通して、支出の内容が家庭によって異なることに気づかせ、家計への関心をもたせる。	(主)「家計簿をみてみよう」をもとに自分の家の家計に目を向け、現在の消費と将来の消費を適切に選択しようとしている。 (思) 経済活動における家計の役割について考え、自分の言葉で説明している。	○	○		ノート ワークシート						
		93	2 消費生活と流通とのかかわり ○流通とは ○私たちと流通 ○消費と広告のあり方	企業が生産した商品が私たちの手もとに届くまでの経路は、どのようになっているかを理解する。	販売形態が多様化して消費の選択肢が増えていることに気づかせ、適切な選択をすることに関心をもたせる。	(思) 消費者として、広告について注意しなければならないことを考え、自分の言葉で説明している。 (知) モノやサービスの販売方法が多様化してきている現状とその特色をさまざまな資料から読み取りまとめている。		○	○		ノート ワークシート				○	
		94	3 消費者を支える政府の取り組み ○契約を結ぶということ ○消費者をめぐる問題 ○政府の取り組み	消費者の権利は、政府によってどのように支えられているのかを理解する。	具体的な事例を通して、消費者を支える政府の取り組みについて理解させるとともに、消費者の自立も必要であることに気づかせる。	(知) 消費者をめぐる問題に対する消費者保護行政のさまざまな取り組みについて理解し、その知識を身につけている。			○		ノート ワークシート					○
		95	* 学習をふりかえろう 第3部1, 2章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。			○	○		ノート ワークシート					
		96	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。		○	○		単元テスト					
		97	1 私たちの生活と企業 ○企業とは何か ○私たちと企業のかかわり ○企業活動の目的	企業は経済のなかでどのような役割を果たし、どのような目的で活動しているのかを理解する。	企業の役割について、利潤の追求のみならず、雇用の提供や社会的責任を果たすなど、多様な役割があることに気づかせる。	(思) 企業の活動と私たちの生活とのつながりについて考え、自分の言葉で表現している。		○			ノート ワークシート					○
		98	2 企業活動のしくみと種類 ○企業活動に必要なもの ○さまざまな企業	企業の活動は、どのようなしくみで行われているのかを理解する。	「パン屋の経営者になってみよう②」を活用して、価格を決めるための条件について多面的に考えさせる。	(知) 企業活動の目的や企業の種類、経済活動における企業の役割について理解し、その知識を身につけている。			○		ノート ワークシート					○
		99	3 株式会社のしくみ ○株式とは ○株式会社のしくみ ○株式市場とは	株式会社は、どのようなしくみの会社なのかを考える。	「パン屋の経営者になってみよう③」を活用して、どのような企業形態を選択するかについて考えさせ、株式会社のしくみについて理解させる。	(知) 新聞などから株価の変動を読み取り、変動の理由と社会のできごととを関連づけている。			○		ノート ワークシート					○
		100	4 企業競争の役割 ○競争によるメリット ○競争がなくなった状態	企業競争は、私たちの生活にどのような影響をもたらすかを理解する。	「パン屋の経営者になってみよう④」を活用して、企業が競争を通して発展していることを理解させ、独占や寡占がもたらす弊害についても気づかせる。	(主)「寿司業界の激しい競争」や「パン屋の経営者になってみよう④」から企業競争に関心をもち、主体的に追究しようとしている。		○			ノート ワークシート レポート					○
		101	5 働くことの意義と労働者の権利 ○働くことの意義 ○労働者を守る労働三法 ○労働組合の役割と変化	労働者の権利は法律によってどのように保障されているのかを考える。	「パン屋の経営者になってみよう⑤」を活用して、労働者が満足して働ける職場について考えさせる。	(知) 労働者の権利および労働者を守るための法律の内容を理解し、その知識を身につけている。			○		ノート ワークシート					○
102	6 労働環境の変化と課題 ○労働環境の変化 ○女性と雇用	日本の労働環境はどのように変化してきたのかを理解する。	「パン屋の経営者になってみよう⑥」を活用して、経営者の立場から優秀な人材を確保するための雇用の方法を考えさせる。	(知) 非正規雇用に関する資料を収集し、非正規雇用の問題点について整理しまとめている。			○		ノート レポート					○		

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
2 学期 前半	11 月	103	7 企業の社会的責任 ○企業の社会的責任とは ○企業の社会貢献活動	現代社会のなかで、企業にはどのような責任が求められるかを考える。	「パン屋の経営者になってみよう⑦」を活用して、企業の社会的責任としての廃棄物削減について考えさせる。	(主)身のまわりの「環境にやさしい」製品に関心をもっている。	○			ノート ワークシート レポート				○		
		104	8 景気の変動と企業 ○景気の変動と企業 ○不況に対する対応	景気の変動とはどのようなもので、企業はそれにどのような対応しているのかを理解する。	「パン屋の経営者になってみよう⑧」を活用して、景気変動について関心を高め、不況時の企業努力について理解させる。	(思)不況のときにとるべき企業の対応について考え、自分の意見を表現している。 (知)景気変動による企業や私たちの生活への影響について理解し、その知識を身につけている。		○	○	ノート ワークシート				○		
		105	9 金融のしくみとはたらき ○金融とは ○日本銀行の役割 ○金融のしくみ	銀行などの金融機関は、私たちの生活のなかでどのような役割を果たしているかを理解する。	「パン屋の経営者になってみよう⑨」を活用して、生産を増やすための資金を銀行から借りる場合のメリット・デメリットを考えさせる。	(知)直接金融と間接金融を明確にして、金融機関と家計や企業との関係を図表などにまとめている。				○	ノート ワークシート				○	
		106	10 グローバル化と日本経済 ○グローバル化と経済 ○為替の変動とその影響	経済のグローバル化は企業や私たちの生活にどのような影響を与えているかを考える。	「パン屋の経営者になってみよう⑩」を活用して、日本に進出してきた海外企業と競争するための対策を考えさせる。	(思)為替レートの日々の変動に関心をもち、変動の影響を身近な生活のなかから見つけようとしている。			○		ノート ワークシート				○	
		107	11 これからの日本の産業 ○これからの日本企業 ○日本の食料問題とこれから	これからの日本の産業が成長していくためには、どのような取り組みが必要かを考える。	「パン屋の経営者になってみよう⑪」を活用して、関税が撤廃された場合にすべき企業の経営努力を考えさせる。	(主)TPPなど世界における関税撤廃の動きに関心をもち、今後の動向についてメディアの報道に目を向け、主体的にまとめている。	○				ノート ワークシート レポート				○	
		108	* 学習をふりかえろう 第3部3章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。			○	○		ノート ワークシート レポート					
		109	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思)学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知)基本的内容を理解している。		○	○		単元テスト					
		110	1 私たちの生活と財政 ○財政とは ○財政の役割	市場経済において、政府はどのような役割を果たしているかを考える。	クローズアップを活用して、新幹線の建設を事例として財政の役割について理解させる。	(知)政府が提供するモノやサービスと民間企業が提供するモノやサービスを比較し、経済活動における財政の三つの役割について整理しまとめている。				○	ノート ワークシート				○	
		111	2 国の支出と収入 ○日本の歳出と特色 ○日本の歳入と税金の種類 ○税金の公平性・効率性	政府はどのようにお金を集め、どのようなことに使っているのかを理解する。	納税者としての自覚をもって、効率と公正の観点から、よりよい租税のあり方を考えさせる。	(思)税金を公平性・効率性の視点から分析し、納税者として税制度のあり方について考え、自分の意見を表現している。 (知)図⑤から日本の歳出・歳入の特色を読み取り、財政の課題について整理している。		○	○		ノート ワークシート				○	
		112	3 社会資本の役割と環境への取り組み ○社会資本の整備 ○環境保全と社会資本 ○これからの社会資本のあり方	私たちの生活をより良くするために、国や地方公共団体はどのような社会資本を整備しているのかを理解する。	身近な生活のなかから、道路、下水道、公園、文化施設などを取りあげ、社会資本によって私たちの生活が支えられていることに気づかせる。	(思)②公共事業について、具体的な事例を取りあげ、対立と合意、効率と公正の観点から今後のあり方を考え、自分の意見を表現している。 (知)社会資本の整備、公害の防止など環境の保全について理解し、その知識を身につけている。		○	○		ノート ワークシート				○	
113	4 社会保障と私たちの生活 ○社会保障の考え方 ○日本の社会保障制度 ○少子高齢化と社会保障のあり方	社会保障制度にはどのようなものがあり、これからはどうあれば良いのかを考える。	少子高齢社会など現代社会の特色をふまえながら、これからの福祉社会のめざすべき方向を考えさせる。	(思)少子高齢化が進む日本における社会保障制度の課題を見いだし、今後のあり方について自分の意見を表現している。 (知)日本の社会保障制度の四つの柱の基本的な内容について理解し、その知識を身につけている。		○	○		ノート ワークシート				○			

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
2 学期前半	12 月	114	5 これからの日本の財政 ○日本の財政 ○日本の将来と公正な税負担 ○納税者としてのあり方	少子高齢化が進むなかで、これからの日本はどのような国づくりを進めていくべきかを考える。	財政赤字の拡大や国債の大量発行といった日本の財政がかかえる課題を認識させ、納税者として租税の使いみちを監視することを意識させる。	(主) 「将来への借金、国債」を活用して、国債発行の是非について自分の考えの裏づけとなる資料を収集し、積極的に意見交換をしている。 (知) 「大きな政府」「小さな政府」という考え方について、スウェーデンとアメリカを事例として取りあげ、そのメリットとデメリットを整理し自分の考えをまとめている。	○		○	ノート ワークシート レポート				○		
		115	* 学習をふりかえろう 第3部4章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。				○	○	ノート ワークシート					
		116	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。			○	○	単元テスト					
		117	* 学習の前に ○世界の子もたちと協力できることを考えてみよう 1 国家と国際社会 ○主権国家とは何か ○国どうしのルール ○国旗と国歌	主権国家とはどのようなもので、国際社会にはどのようなルールがあるのかを考える。	各国がたがい主権を認め合うことで成り立つ国際社会における国際法の意義について考えさせる。	(知) 主権国家の定義や国どうしのルールについて理解し、その知識を身につけている。				○	ノート ワークシート			○		
		118	2 領土をめぐる問題 ○領土をめぐる問題とその原因 ○日本の領土をめぐる問題 ○領土をめぐる問題の解決に向けて	現代の日本では、領土をめぐるどのような動きがあるのかを理解する。	日本の固有の領土である北方領土や竹島においては、ロシア、韓国との間で領土をめぐる未解決の問題が残されていること、尖閣諸島においては解決すべき領有権の問題が存在していないことを理解させる。	(主) 日本がかかえる領土をめぐる未解決の問題について問題意識をもち、平和的手段による解決を求めている。 (知) 歴史的分野の学習を生かして、北方領土、竹島、尖閣諸島についての歴史的経緯を調べ、日本の固有の領土であることを整理しまとめている。	○		○	ノート ワークシート レポート			○			
		119	3 今なお解決しない紛争 ○紛争の背景にあるもの ○テロリズムの増加 ○平和実現の難しさ	地域紛争の背景には何があり、どのようなことが平和の実現を難しくしているのかを考える。	地理的分野や歴史的分野の学習成果を生かして、世界の各地で地域紛争が現在も続いていることに気づかせる。	(思) 地域紛争と貧困の関係について考え、地域紛争の原因を自分の言葉で表現している。			○		ノート ワークシート			○		
		120	4 核兵器の脅威と軍縮の動き ○核兵器の脅威 ○核軍縮に向けて ○通常兵器の軍縮 ○平和的外交の必要性	核兵器をめぐる状況は、どのように変化してきたかを理解する。	世界を何度も破壊できるほどの核兵器が蓄えられている現状に着目させ、軍縮に向けた動きや平和的外交の必要性に気づかせる。	(主) 図②から核をめぐる世界の動きを読み取り、軍縮の動きや平和的外交について関心を高めている。 (思) 核兵器がもたらしたマイナス面と平和的外交の必要性について考え、自分の言葉で説明している。	○	○		ノート ワークシート						○
		121	5 戦争の被害と人権 ○戦争の被害者はだれ？ ○安心して生活するための人権保障 ○平和の条件	世界の人々の人権を守るために、どのような取り組みがなされているのかを理解する。	クローズアップを活用して、社会における立場の弱い人が戦争の犠牲になっている現状に着目させ、世界では人々が安心して生活するための人権保障の努力が続けられていることを理解させる。	(思) YesNoを活用して、人権保障のための外国の介入の是非について考え、自分の言葉で説明している。 (知) 「16歳の少女が訴える『教育を受ける権利』」からマララさんの訴えを読み取り、パキスタンと日本の人権保障の現状について比較し整理している。			○	○	ノート ワークシート			○		
122	6 国際連合のはたらきとそのしくみ ○国際連合のはたらき ○国際連合のしくみ ○国際連合の課題	国際連合は国際社会のなかで、どのようなことをめざしているのかを理解する。	国際連合では、集団安全保障の考えの下に、国際紛争の解決に取り組んでいることを認識させ、国際連合における日本の役割に目を向けさせる。	(知) 国際連合のはたらきとしくみについて理解し、その知識を身につけている。				○	ノート ワークシート			○				

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育					
							主	思	知		人間	情報	将来	意思		
2 学期 前半	12 月	123	7 地域機構と世界の経済格差 ○国家の枠をこえたEU ○地域機構の発展 ○グローバル化と経済格差の拡大	地域機構はどのようにして生まれ、何をめざしているのかを理解する。	クローズアップを活用して、EUの役割と現状について理解させる。	(知) ①おもな地域機構の役割と現状について理解し、その知識を身につけている。 ②図③から、地域機構ごとの経済格差の現状(南北問題、南南問題)を読み取り、その特色をまとめている。			○	ノート ワークシート		○				
		124	8 国際社会における日本の役割 ○日本の外交の原則 ○唯一の被爆国としての立場 ○日米安全保障条約 ○日本の国際協力と自衛隊	唯一の被爆国であり、平和主義をかかげる日本は、国際社会でどのような役割を果たすべきかを考える。	日本は唯一の被爆国であり、平和主義をかかげていることをふまえて、戦争や地域紛争を防止し国際平和を確立することに、率先して努めなければならない使命をもっていることを理解させる。	(思) 唯一の被爆国であり、平和主義をかかげる日本の国際平和を実現するための役割について考え、これからの日本の国際協力のあり方について自分の意見を表現している。 (知) 「自衛隊による国際協力」の2枚の写真の比較から、自衛隊による国際協力のあり方の違いを読み取りまとめている。		○	○	ノート ワークシート				○		
		125	9 国際社会のより良い発展 ○貧困問題と人間の安全保障 ○求められる日本の経済協力 ○NGOの活動 ○より良い国際社会を実現していくために	私たちが世界の人々と共存していくためには、どのようにすればよいのかを考える。	NGOの活動について、クローズアップの具体的な事例を通して理解させる。	(思) より良い国際社会を実現するために、日本が果たすべき役割を、現在と将来に分けて考え、自分の意見を表現している。 (知) 「人間の安全保障」という考え方について理解し、その知識を身につけている。			○	○	ノート ワークシート				○	
		126	* 学習をふりかえろう 第4部1章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。			○	○	ノート ワークシート						
		127	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト						
		128	1 地球規模で広がる環境問題 ○私たちと地球環境問題 ○地球環境問題の原因と影響 ○地球環境問題の解決に向けて	現在、地球ではどのような環境問題が起きているのかを考える。	クローズアップを活用して、環境問題は、せまい地域や国にとどまらず、国境をこえた地球規模の問題に広がることを理解させる。	(主) 地球環境問題の解決に対する取り組みを主体的に追究している。 (知) 地球環境問題が、地域、国家、地球規模の問題となっていることを理解している。		○	○	ノート ワークシート		○	○			
		129	2 地球温暖化とその国際的な対応 ○地球温暖化防止への国際的な取り組み ○京都議定書にかわる新たな枠組みづくり ○環境問題と南北問題の解決に向けて	地球温暖化の防止のために、私たちはどのようなことができるのかを考える。	地球温暖化防止に関して、具体的な事例を通して国際的な取り組みと日本の取り組みについて理解させる。	(思) 地球温暖化防止への今後の国際的な取り組みについて、先進国と発展途上国の両方の立場から、対立と合意、効率と公正の視点をもとに考察し、自分の意見を表現している。 (知) 地球温暖化解決にかかわる資料を読み取ることができている。			○	○	ノート ワークシート		○	○		
1 月	130	総合テスト		診断評価				○	○	実力テスト						
	131	総合テスト解答	学習の振り返り 誤答レポートの作成	定着の不十分の課題を補足する。	(主) 誤答レポート等にまとめることができる。		○		誤答レポート							

学期	月	時限	単元	学習内容	指導目標	評価規準 おおむね満足(B)	評価の観点			評価の見取り	キャリア教育				
							主	思	知		人間	情報	将来	意思	
2 学期 後半		132	3 資源・エネルギー問題 ○限りある天然資源をめぐって ○新しいエネルギー資源への期待と課題 ○原子力発電の現状と課題	資源やエネルギーを安定して確保するには、どのような方法があるのかを考える。	クローズアップやコラム「藻類から石油ができる」を活用して、新しいエネルギー資源への期待と課題について考えさせる。	(思) エネルギー確保における現状と課題や、原子力利用をめぐる安全性と効率性をめぐる対立を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (知) 日本の原子力発電の現状に関する資料を収集し、原子力発電のメリットとデメリットを整理して、今後の課題についてまとめている。		○	○	ノート ワークシート		○			
		133	4 これからのエネルギーと消費生活 ○これからの日本のエネルギー政策 ○社会のしくみによる循環型社会の実現	循環型社会を実現するためには、資源やエネルギーの面でどのような取り組みが必要なのかを考える。	クローズアップを活用して、再生可能エネルギーに着目させ、循環型社会の実現が「持続可能な社会」につながることに気づかせる。	(主) 循環型社会の実現を自らの問題としてとらえ、3Rに主体的に取り組もうとしている。 (知) 「持続可能な社会」を実現するために必要なことを理解し、その知識を身につけている。	○		○	ノート ワークシート レポート		○	○		
2 月		134	* 学習をふりかえろう 第4部2章	単元の学習事象を確認し説明する。	知識確認・言語活動に加え、「学習の前に」のふりかえりと第5部への準備をうながす。			○	○						
		135	単元のまとめ	これまでの学習の振り返りと深化をはかる	単元テストによりこれまでの学習の振り返りと、その特色について自分の言葉でまとめさせる。	(思) 学習の内容をおおまかに文章としてまとめることができる。 (知) 基本的内容を理解している。		○	○	単元テスト					
		136	1 持続可能な社会をめざして レポート作成の手順	「持続可能な社会」に向けて、私たちはどのようなことができるのかを考える。	身近な地域の生活や日本の取り組みとの関連性に着目させ、世界的な視野と地域的な視点に立って探究させる。社会科のまとめとして位置づけ、適切かつ十分な授業時数を配当する。		○	○	○	レポート ワークシート					
		137	演習		これまでの学習を振り返り、次の学習にいかす				○	○	公民分野総合問題				
		138	演習		これまでの学習を振り返り、次の学習にいかす				○	○	公民分野総合問題				
		139	学習のまとめ		これまでの学習を振り返り、次の学習にいかす				○	○	公民分野総合問題				
3 月		140	高校入学学力検査						自己採点						